



「尚徳」 7月号 第526号 平成28年7月15日
鳥取大学附属小学校 学校便り
<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>
題字「尚徳」は、住川英明校長



手間暇をかけることの大切さ

副校長 松本 洋介

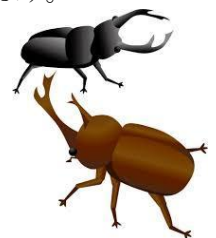
朝、低学年教室の前では、植物や生き物の世話をしている子どもたちの姿をみかけます。1年生は朝顔がどんどん成長し、丈も支柱の高さを超え、つるが元気よく伸びています。ペットボトルで水やりをしたり、からまりかけたつるをゆっくり離したりして育てています。2年生は、自分のミニトマトや学年で育てている野菜に水やりをしたりして育てています。植物以外にも、ダンゴムシを飼っているケースの中を丁寧に掃除したり、カニの水かえや餌を探したりして一生懸命世話をしています。また、他の学年でも、野菜を育てたり、蝶やメダカが卵から成長していく様子を実際に観察したりする学習をしています。



子どもたちの姿をみながら、私が小学生の頃、特に中学年の頃にカブトムシやクワガタの採集に夢中だったことを思い出します。何よりもカブトムシやクワガタが好きで、夏休みは朝、夜と家の近くの電灯の下や木をじーっと目をこらして見て、何か小さな塊を見つけると、うきうきして近づき、石だったりするとがっかりし、本物だとやっと見つけたという達成感を味わうことができました。また、友達にカブトムシの幼虫がいる場所（確か竹林のような所だったと記憶しています）を教えてもらい、時間の経つのも忘れて土を掘り、大切な集まりに遅れて叱られた覚えがあります。初めてカブトムシのサナギの姿や動く様子を見てとても感動したのですが、きっと時間をかけ、苦勞をして見つけたことが、感動をより大きくしたのではないかと思います。また、あのいもむしのような幼虫がどのようにして成虫の姿に近いサナギに変身したのか、サナギの中はいったいどうなっているのか不思議でたまりませんでした。（今でも不思議ですが）

技術がどんどん進歩し、今ではパソコンやスマートフォン等で身の回りの多くのものが簡単に映像等で見られる時代になりました。実際に体験しなくても、バーチャルな世界で疑似体験をすることもできます。これらは、短時間に調べたり、知ったりすることができ、時に大変便利なもので、図鑑等では表現できない動き等も表現ができるという点でもとても優れていると思います。また、カブトムシ等もお店で簡単に手に入るようになりました。しかし、いくら実物により近いリアルな表現や世界でも、本当の場所に行ったり、実物に触れたりしなければ味わえないことや分からないことがたくさんあります。また、自分が時間をかけ、苦勞をして得たことほど長く記憶に留まり、その後の貴重な財産にもなると思います。

明日から長い休みに入ります。安全・体調には十分に気をつけながら、観察や物作り、お手伝い等、何か一つでも「手間暇をかけ熱中した」体験をし、一回りも二回りもたくましくなり、思い出に残る休みになることを願っています。



8月の主な行事予定



1日（月）プール開放（5日まで） 12：45～14：30	11日（木）山の日 18日（木）図書館開館13：30～15：30
3日（水）図書館開館13：30～15：30	23日（火）夏季休業日終了
4日（木）県水泳大会 " 図書館開館13：30～15：30	24日（水）B週、夏休み明け全校集会
8日（月）図書館開館13：30～15：30	30日（火）夏休み作品展（9／2まで） " 執行部 13：30
10日（水）図書館開館13：30～15：30	" 常任委員会15：00

お世話になりました ～尚徳クリーン活動～

7月8日（土）のクリーン活動では、多くの保護者の皆様に窓ふきや草刈りなど日々の清掃活動では行き届かないところを、長時間にわたってきれいにさせていただきました。

また、懇話会執行部や生活安全部の皆様には、この活動の準備や当日の進行・後片付けなど、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



本校の研究について

前回は「本校の研究主題と副題」についてご紹介しました。今回は、各教科・領域の研究テーマについてお伝えします。

11月に開催予定の研究発表大会では、県内外の参加者に授業を観ていただき、日々の実践をもとに研

教科・領域	研究テーマ		共同研究者
国語	ことばをつなげて広げよう・深めよう	三谷 早苗 谷口友理枝	小笠原 拓
社会	意欲・学力・実生活が近づき合う社会科学習	尾崎 隆宏	高橋 健司
算数	思考のつながりを見据えた単元構成の充実	多内 京子	矢部 敏明 溝口 達也
理科	科学的に考え、ともに学び、問い続ける理科学習	磯江 孝	高橋 ちぐさ
生活	児童の主体的な体験活動を通して、気付きの質を高める授業づくり	谷田 順子	高橋 千枝
音楽	表現活動を取り入れた鑑賞の授業づくり～「踊りと音楽」題材開発における2つの挑戦～	大野 桂	鈴木 慎一郎
図画工作	つくりだす喜びを感じ、自分なりのよさをもとめる子どもをめざして～自分のよさを再発見できる題材構成～	池本佐知子	武田 信吾
保健	自分の健康を守り育てる子どもの育成	福田美恵子	関 耕二
体育	「わかる・できる」楽しさを感じる体育学習	夏目 貴史	
道徳	先人の生き方に学ぶ道徳の授業	乾 道夫	竹内 善一
総合的な学習	体験を通して自らが課題を発見し考え、解決しようと問い続ける子ども	谷田 健司 宮脇 牧子	土井 康作
外国語・英会話活動	外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養う工夫 ～音声や基本的な表現に慣れ親しむ活動を中心に～	福井 洋子 ニコラヴェロヴェン	足立 和美

究の取り組みについて提案し、さらに研究を深めていきます。

日本の美を探して

池本 佐知子

児童作品

昨年度は本紙「尚徳」で伊藤若冲展の話を書きましたが、今年は院展に行ってきたお話をします。さすが「日本画の最高峰」とも言われる再興院展、会場には日本画の粋を集めた大作の数々が展示されていました。

鑑賞していて、ひとつ驚いたことがあります。洋画展と比較すると、圧倒的に鑑賞する年齢層が高いということです。若年層は、日本の芸術にあまり興味が無いのでしょうか。

図画工作科の学習では、5、6年生になると、身近な作品の鑑賞からいわゆる名作とよばれる作品の鑑賞に移行していきます。今、6年生では「教えて！雪舟先生！」という水墨画の学習をしています。子どもたちは当初、水墨画の勉強と聞いて、「え～、難しそう」と鼻白んでいました。ところが雪舟作の「慧可断臂図」と「破墨山水図」を鑑賞すると、これが実におもしろい！雪舟の有名なねずみのエピソードを語る子どももいれば、墨をたたきつけたような絵からヒントを探し出して、何が描いてあるか想像して賑やかに話し合う子どももいます。鑑賞の後は、有名な作品の模写をしたりオリジナルの水墨画を描いてみたりして、日本の美に親しみました。今後は子どもたちの作品を表装し、掛軸や屏風に仕立てる予定です。

日本に住んでいて、日本の芸術を知らないのは、寂しい気がします。食わず嫌いのように敬遠していないで日本の美術に触れてみると、その魅力に驚かされるかもしれません。お子さんと一緒に、掛軸や屏風など、日本の美を味わってみられてはいかがでしょうか。

